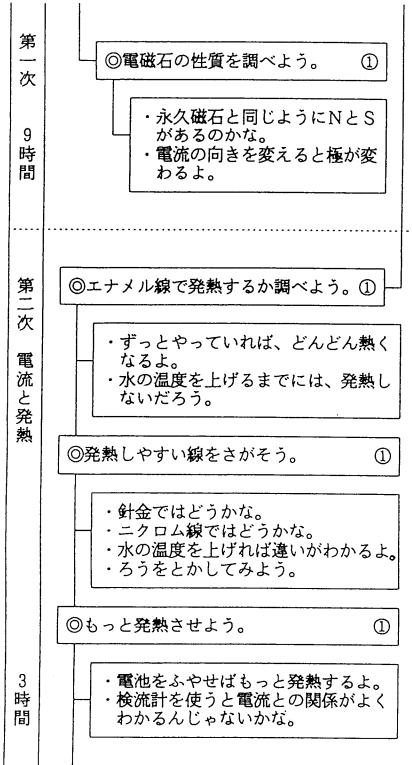
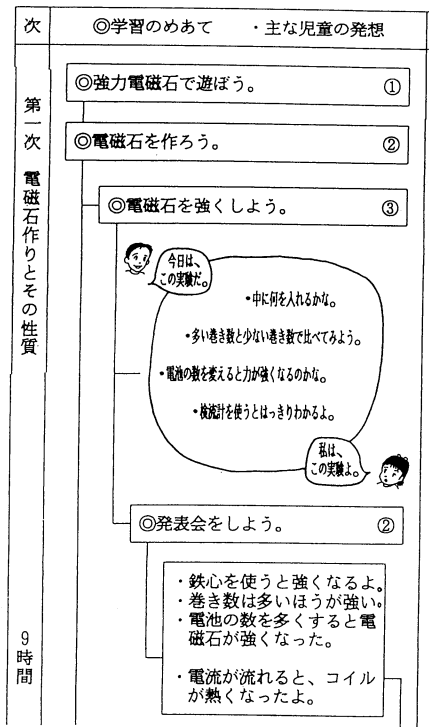


資料1 単元の構想



- ②
- イ たえず「自分」を意識して、授業に取り組むようになった。実験観察の重視
- ① (1) 五
- ウ 「結果の情報交換によって自分の考えを深める場」
- ・児童の記録には、友達との実験の比較や自ら考えたことが書かれてあったことから、内面での練り上げは十分になされた。
- ウ
- ア 子供サイドに立った計画の立案により、指導内容の精選・重点を図ることができた。
- イ たえず「自分」を意識して、授業に取り組むようになった。実験観察の重視
- ③
- ア 実験を行うときの条件を意識し、自分の思考の流れにそって主体的実験を行う姿が見られるようになった。
- ④
- ア 調べたい順序を明確にし、自分の考えた方法で実験できると、積極的な姿に変わってきた。
- イ 複雑化をとることで、子供一人一人の考えや願いを生かすことができた。
- ウ T・Tは、子供たちの多様な考えや方法、つぶやきに対応することができ、きめ細やかな支援につながった。
- ① (2)
- ウ 個のよさを生かすための評価について重点的に研究を進める。
- ②
- イ メッセージの拡大、情報伝達手段としてコンピュータの活用を図る。
- ③
- ア 児童一人一人が身に付けた能力を使い、発展的な追究ができるように教材や場の工夫をしていかなければならない。